AI x データサイエンススキル

AI活用人材育成プログラム

株式会社アイ・ラーニング

2025年4月

CONTENT

01 AI活用人材とは

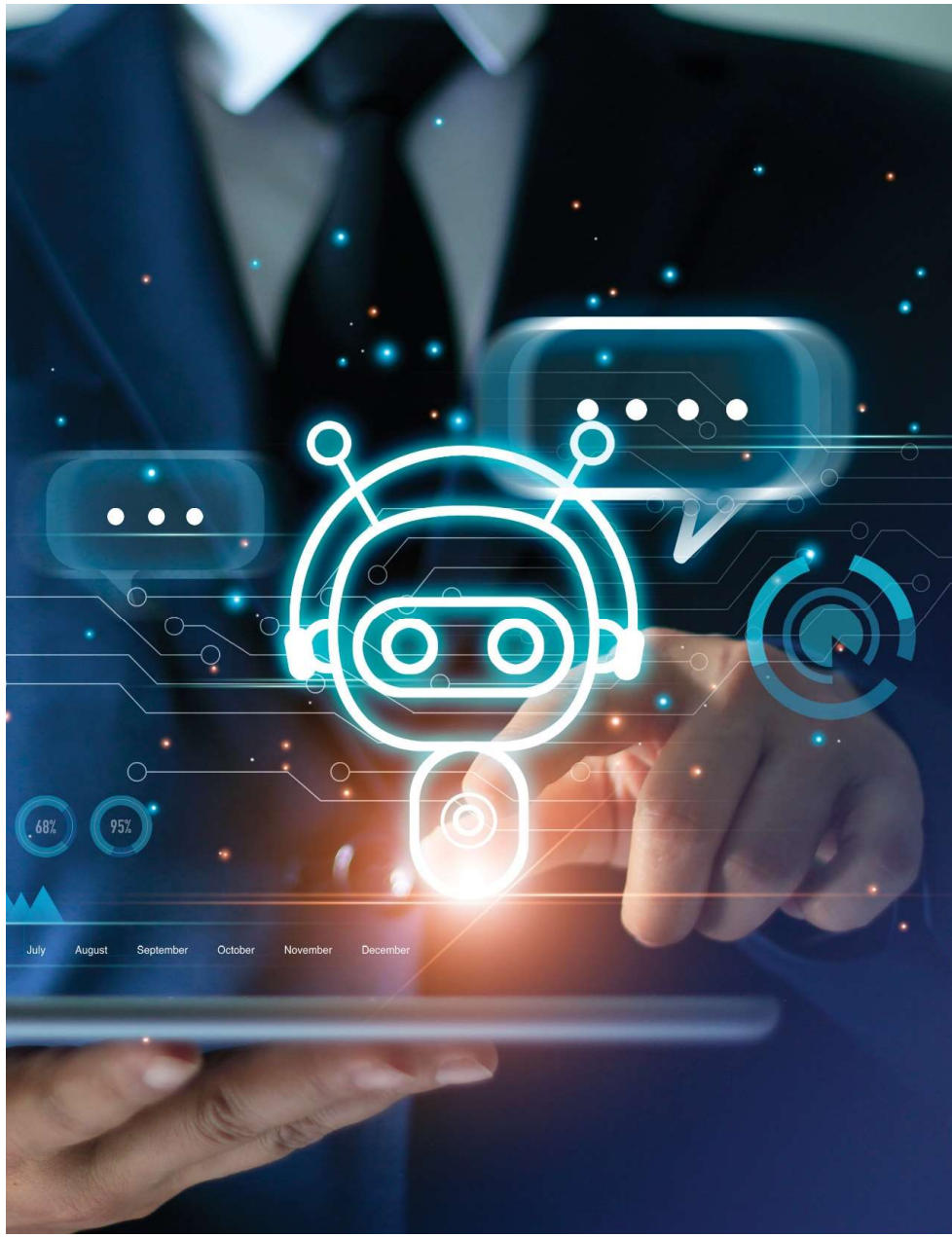
02 AI活用人材育成プログラムの概要

03 カリキュラム詳細

04 本プログラムで育成できる人材像

05 修了証、オープンバッジについて

06 料金プラン



AI活用人材とは

Society5.0を生き抜く「AI活用人材」の育成

Society 5.0の“リベラルアーツ”

Society5.0
人間とAIが共生する社会は、すでに目の前に来ています。AIをはじめとする様々なIT技術を使って、今までにない新たな価値を生み出し、社会的課題や困難を解決していく時代となりました。

“リベラルアーツ”
AIに関する知識・技術は、もはや一部のIT人材にのみ求められるスキルではありません。Society5.0を生き抜く、全てのビジネスパーソンに求められる教養、“リベラルアーツ”なのです。

AI教育を全ての方へ

関西学院大学×日本IBM
World Wideに活躍し、社会や隣人に仕える世界市民を輩出してきた関西学院大学と、AIを使ってビジネス課題の解決に取り組む日本IBMが、「AI活用人材育成プログラム　バーチャルラーニング版」を開発しました。
文系理系を問わず、初学者も含む全ての人に
質の高いオンライン教育をお届けします。

ビジネスの現場でAIを使いこなす”AI活用人材”育成は「急務」です。

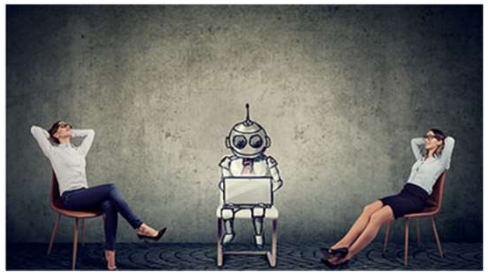
日本では、**AI人材**が**2030年**に
約80万人不足すると予測されている
(2019,みずほ情報総研)

多くの企業が抱える問題

AI導入は進んでいるが、
AIを扱える自社人材がいない

AIの知識はあっても、
現場で活用した経験のある人材がいない

AI人材は人気が高く採用が
なかなか進まない



Society 5.0やDXを推進する
人材の育成方法がわからない

昨今のAIテクノロジーの進歩により、様々な分野において、今までアプローチが困難であった問題の解決が進む一方、
AI導入の推進役を担い、変革の命運を握る「AI人材」が不足すると予測されます。
特に、企業組織内でAIを使いこなす人材＝AI活用人材の不足は、経営にも影響すると考えます。

AI活用人材とは

Society5.0で活躍する”AI活用人材”とは、AIをビジネスで活用し、現実の諸問題を解決できる人材です

対象外	AI活用人材	
AI研究・開発者	**AIスペシャリスト**	**AIユーザー**
最先端のAI技術 （解析アルゴリズム,機械学習等） を研究・開発する	AI技術を活用して、 AIユーザーの抱える問題に対して ソリューションの提供を行う	AI技術を利用した ソリューションを用いて ビジネス上の問題解決を行う

本プログラムでは、AIに係る人材を大きく3つの類型（AI研究・開発者、AIスペシャリスト、AIユーザー）に分類しました。
本プログラムでは、AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材を「AI活用人材」と位置づけ、育成します。

AI活用人材育成プログラムの概要

AI活用人材育成プログラムとは

AI活用人材を自社で育成できるプログラムを関西学院大学と日本IBMで共同開発しました。
「現場で必要なスキル」が身につく、実践的な教材であることが最大の特徴です。

×

- キリスト教主義に基づく全人教育を理念として、米国宣教師W.R.ランバス博士によって、1889年に創立
- スクールモットー“Mastery for Service”は、奉仕のための練達と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えることを示している
- 14学部14研究科で構成する総合大学
- スーパーグローバル大学創成(SGU)事業に採択(2014年度)
- 「人工知能研究センター」「数理・データ科学教育研究センター」などAIに関わる研究に取り組み、AI人材を輩出している

- 1911年に米国で創立、日本でも80年以上の歴史がある老舗IT企業
- 研究所を持ち、AI”Watson”を自社で開発し、継続的に研究を実施
- 現在は、企業の持つ課題をAIなどで解決するコンサルティング事業を幅広く実施

左から、
日本IBMの石田秀樹グローバル・ビジネス・サービス事業本部パートナー、
加藤 洋グローバル・ビジネス・サービス事業本部長 、
関西学院大学の村田治学長、
巳波弘佳副学長

ビジネスの現場で活躍する「AI活用人材」を育成するためのプログラム

専門家の監修

関西学院大学
- 巳波 弘佳　工学部教授(副学長)
- 西野　均　共通教育センター教授

→監修者紹介は、次ページ

実践的な教材

- 豊富なビジネス事例
- 実践的なAI開発ワーク
- ビジネスケースでのAIによる解決策検討

監修者紹介

本プログラムは、AIに関する知見が豊富な関西学院大学巳波教授と西野教授が監修しています。

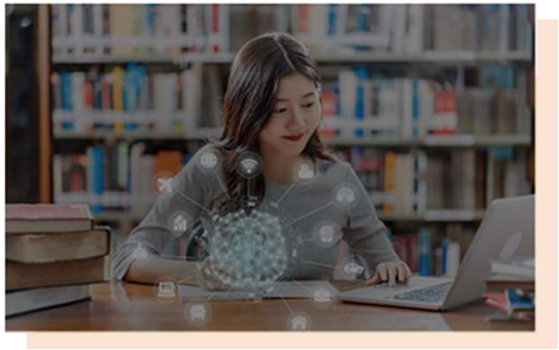
巳波 弘佳　工学部教授(副学長)

【略歴】
- 本学と日本IBMとのAI共同プロジェクトの統括。
- 研究分野は情報科学。
- 研究対象は、AIをはじめ、情報科学の理論研究から様々なシステムの実用化まで幅広い。

西野　均　共通教育センター教授

【略歴】
- 日本IBM　研究開発部門にて先進技術を活用した新規ビジネス開発部長を歴任。
- 現在、AI活用人材育成プログラムのAI、データサイエンス関連の授業及び課題解決型演習に取り組む。

本プログラムの特徴



文理関係なく、初学者でもAI活用人材になれます

文理関係なく、初学者をターゲットに作成した教材です。

入門科目から実践科目までご用意。受講者のレベルに合わせて受講可能です。

2.教材紹介へ

24時間365日TAチャットボットが学習をサポート
有識者がいなくても安心して導入いただけます

24時間対応のTA*1チャットボットが受講者からの質問に答えます。
有識者がいなくても安心導入可能です。

*1Teaching Assistantの略。大学教授の補佐を行い、教授が担当する講義の受講生対応も行う。

3.システム・サポート紹介へ

1科目1人あたり2万円の低価格で提供します

学習期間は約1年間*3。社会人でも無理なく学習可能です。

*2入門科目税込22,000円、演習科目税込25,300円です。学校法人様は、別途お問い合わせください。

*3サービス提供期間が1年間となり、学習期間はサービス提供期間から貴社の社内準備期間を差し引いた期間となります。

4.料金・プランへ

本プログラムの活用シーン

AI活用人材育成プログラムは、ニーズに合わせた多様な活用方法があります。

01
BUSINESS / 企業・自治体でのご活用

本プログラムは、ビジネスの現場で即戦力となる
AI活用人材を育成することができます。

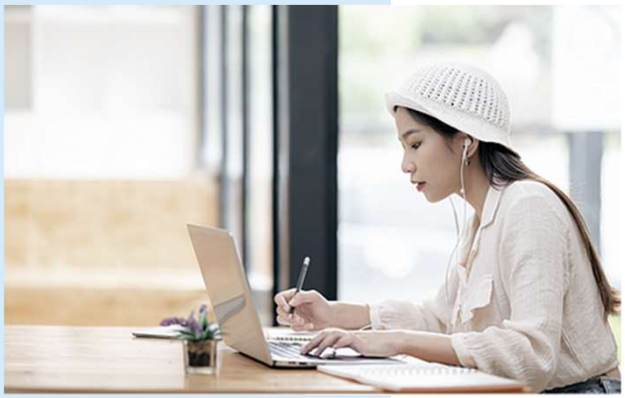
ご活用例

研修としての導入

- 部門別研修等
- 新人社員研修・内定者研修
- 次世代リーダー向けプログラム研修

希望者への自主学習の提供

02
UNIVERSITY/ 大学でのご活用



就職活動を見据えた学生にも高い人気がある
関西学院大学のAI科目をそのまま導入いただけます。

ご活用例

大学の単位付与科目として導入

キャリア・就職活動サポートの一環として、
希望者へのAIスキル習得支援として活用

AI活用人材育成プログラムの外販実績

2025年3月時点

- AI活用人材育成プログラムは、2021年7月の外部販売開始から**約4年で約200社**の企業・団体に導入いただき、高い評価をいただいています。
- 経団連でリカレント教育事例として紹介され、文部科学省による認定を受けるなど、社会的な評価も非常に高いプログラムです。

約200社の企業・団体に導入いただきました*1

(敬称略)

一部抜粋

企業	自治体	学校法人
大同生命保険 あおぞら銀行 タツタ電線	兵庫県	新潟産業大学

受講者の91%が「役に立った」と回答*2

2021年7月からの約4年間で
のべ受講者数*3

7,400名超

2024年度実績
役に立った*4

約**91**%

先進取り組みとして紹介・認定を受けています

経団連「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言で
リカレント教育事例として紹介

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定
(認定有効期限：令和8年3月31日まで)

多くの受講者が**実業務に活用**しています*5

今さらこの年齢で、とも思っていましたが、必ずしも**特別な人だけの知識ではなく、今後施策を検討する際のさまざまなヒントにできる**と感じました。

業務での活用アイデアがいろいろと浮かび、自動化を進める会社の動きに、**自分なりに貢献していきたい**と思いました。

*1 2021年7月～2025年3月ののべ申込団体数 *2 2024年度学外対象受講者アンケート *3 学外申込講座数の総計 *4「本講座は、あなた自身のスキル・知識の向上に役に立ったと思いますか。」について、「大いに役に立った」「役に立つところが少しはあった」と回答
*5 2021~2024年度学外対象AI活用入門受講者アンケート「[問19]満足度の質問で選択した項目の理由を教えてください。」の自由記述回答より抜粋。

AI活用人材育成プログラムの関西学院大学内の実績

2025年3月時点

- AI活用人材育成プログラムは、関西学院大学生向けにも学外提供に先行して提供しており、**文理問わず、受講者の非常に多い人気講義**です。
- 受講者の満足度・合格率も対面講義と比較して非常に高く、オンライン形式だからこそ、受講効果が高い講義として好評です。

のべ受講者15,755名、文系理系問わず

のべ受講者数*1

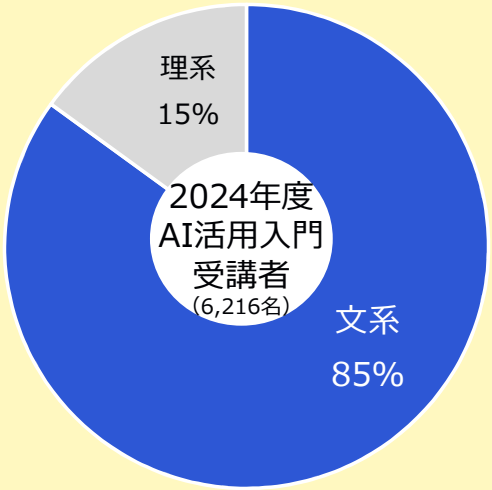
15,755 名

文系受講者*2

85 %

10科目履修完了者*3

6 名



従来の対面講義からVL版に切り替え、**希望する全学生**に提供できるようになりました。今では、**文理関係なく**非常に**多くの学生が受講**する**人気講義**です。

フルオンデマンドでも学習効果が高い講義内容

満足度*4

92 %

合格率*5

91 %

興味があるけど**文系には難しいのではないかという先入観や不安**はあったが、**一般知識として知るべきことや実践的な講義によって学ぶことができ**、比較的に楽しみながら進めることができた*6

図や例などを用いていて**頭に入ってきやすかった**し、ワークで**習ったことを実践**できるから理解も深まり、わからないところがあっても**前の講義に戻って確認**することができた*7

文理問わず学習効果の高い講義内容・サポートの結果、対面で行う他の講義と比較しても、**満足度・合格率**が非常に高い値となっています。

*1 2024年4月～2025年3月の10科目(対面講義を含め、入門3科目、演習3科目、実践演習2科目、発展演習2科目)を受講したのべ学内受講者数 *2 2024年度AI活用入門受講者のうち、神・文・社会・法・経済・商・総合政策・人間福祉・教育・国際学部の学生
*3 全10科目を2024年度に受講完了した学生（実践演習・発展演習は学内向けのみの提供） *4 2024年度学内受講者のうち、AI活用入門・アプリケーションデザイン入門・データサイエンス入門・機械学習プログラミング演習・Webアプリケーションプログラミング演習・UX/UIデザインプログラミング演習の6科目で、「受講を終えた全体的な満足度を教えてください。」について、「非常に満足」「やや満足」と回答した受講者の割合 *5 2024年度全10科目学内受講者のうち、 合格した受講者の割合 *6 AI活用入門受講後アンケート「役立ったと思うかの質問で選択した項目の理由を教えてください。」についての受講者回答 *7 AI活用入門受講後アンケート「わかりやすさの質問で選択した項目の理由を教えてください。」についての受講者回答

バーチャルラーニング: 学習体験全体をデザインした、より学習効果の高い教材

デジタル教材

学習目標達成に必要な実践的なコンテンツやワークを準備しています。デモ動画やワークを活用することで、単調な講義ではなく、学習意欲を向上させる環境を提供します。

Q&A

AIによるTAチャットボットが受講者の疑問を解消し、いつでもどこでもサポートを提供します。また、このシステムは運用側の負担も軽減し、全体の継続利用を支援します。

コミュニティ

ピアツーピアの仕組みを導入し、受講生同士が議論したり、互いに教えあうことが可能です。このトークボードにより、学習の深化と共学を促進します。

バーチャルラーニングとは、解説動画だけでなく、AIアプリ開発やデータ解析などの実践的なワークや、講義内容の質問に回答するチャットボット、双方向コミュニケーションのためのトークボードなど、さまざまな要素から構成された、完全オンラインでの新たな学びの形態です。

Society 5.0時代を生きる全ての人がAI活用人材となれるよう考え抜いて開発された教材です。

01

初学者を念頭においた内容

基礎から積み上げるカリキュラムにより、AIやデータサイエンスに関する知識がない初学者でも受講することが可能

02

体系的かつ実践的なスキルの修得

AI活用人材として必要なスキルを全て網羅し、多数演習を行うことで、「実践力」を修得可能

03

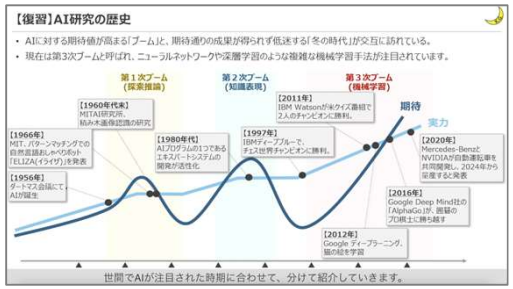
ビジネス視点の醸成

IBMなどAI活用企業の実務の視点を取り入れた内容

教材を構成する6つの要素

- 6つの要素を組みあわせた教材で、ビジネスの場で役立つAI活用スキルと実践力が身につきます。

説明動画



豊富なビジネス事例

ワーク

ビジネスケースでのAIによる解決策検討

デモ動画

実践的なAI体験・開発ワーク

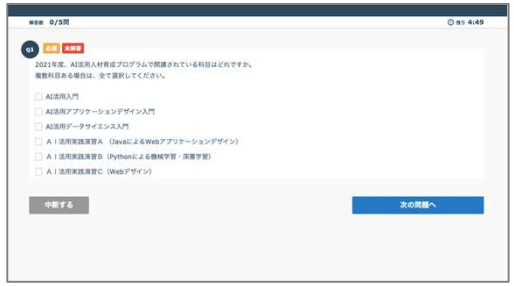
講師の解説動画

ワークの解説を専門家である講師が実施

オンラインプログラミング

ブラウザ上でのプログラミングが可能
（ソフトウェアのインストールは不要）

オンラインテスト



学習した内容をテストで復習可能

*画像はイメージです。実際の画面とは異なる場合がございます。

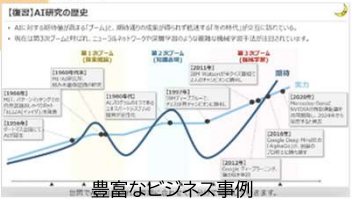
トライアルアカウントについて

代表管理者をご要望/人事育成担当者様 向け

AI活用人材育成プログラムの一部を14日間限定でトライアルいただくことができます

トライアルアカウントでは、講義動画・デモンストレーション・演習・テスト・オンラインプログラミングなどの
各コンテンツについて実際に操作してご確認いただくことができます

説明動画



豊富なビジネス事例

講師の解説動画

ワークの解説を専門家である講師が実施

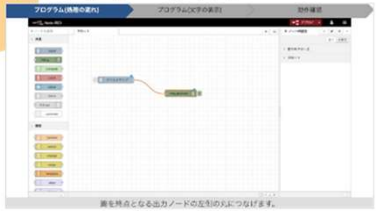
ワーク

ビジネスケースでのAIによる解決策検討

オンラインテスト

学習した内容をテストで復習可能

デモンストレーション



実践的なAI体験・開発ワーク

1分で完了

https://www.i-learning.jp/form/ai-utilization-program.html

カリキュラム詳細

AI活用入門でAIに関する基礎的な知識を身につけていただいたのちに
発展的なコースを受講いただくことができます

入門

AI活用入門

基礎
AI活用
アプリケーション
デザイン入門

基礎
AI活用
データサイエンス入門

実践
AI活用
機械学習プログラミング演習

実践
AI活用
Webアプリケーション
プログラミング演習

実践
AI活用
UX/UIデザインプログラミング演習

カリキュラム - 科目概要

i-Learning

入門科目
到達目標レベル1:「基礎知識を有する」

AI活用入門*

概要:
AI活用に関わる技術、事例、ツール等を幅広く学び、基礎的知識・スキルをビジネスシーンで活用できるようになることを目指す科目

身に付くスキル:AI活用スキル、プロジェクトマネジメントスキル、プログラミングスキル、統計解析スキル(データ分析手法、数学・統計知識)、ビジネス基礎スキル(業務知識)

基礎科目
到達目標レベル2:「基本的な知識・技術を有する」「上位者の補佐ありで作業可能」

AI活用アプリケーションデザイン入門

概要:
AIの各機能(言語、画像、音声、等)の概要、使い方、事例を中心に学び、それらを実際の現場で活用できるようになることを目指す科目

身に付くスキル:AI活用スキル、プロジェクトマネジメントスキル、プログラミングスキル

AI活用データサイエンス入門

概要:
データサイエンスに関わる技術、事例、知識等を中心に学び、特に統計ソフトのRを中心に実際の現場で活用できるようになることを目指す

身に付くスキル:統計解析スキル(データ分析手法、数学・統計知識)、ビジネス基礎スキル(業務知識)

実践科目
到達目標レベル3:「実践的な知識・技術を有する」「上位者の指示を仰ぎ作業可能」

AI活用機械学習プログラミング演習

概要:
機械学習・深層学習の仕組みを学び、プログラミング言語Pythonでプログラミングを行い、機械学習・深層学習に関する基礎的な知識を修得し、活用できるようになることを目指す科目

身に付くスキル:プログラミングスキル

AI活用Webアプリケーションプログラミング演習

概要:
Webアプリケーションの仕組み、開発に必要なプログラミング言語Javaの基礎などを学び、お客様のニーズに沿って、AIを活用したWebアプリケーションを実装できるようになることを目指す科目

身に付くスキル:プログラミングスキル

AI活用UX/UIデザインプログラミング演習

概要:
AIを活用したWebアプリケーションのためのユーザーインターフェイス(UI)デザインに関する基礎的な技術を修得し、顧客価値を最大限に高めるためのUX/UIを設計できるようになることを目指す科目

身に付くスキル:AI活用スキル、デザイン思考、プログラミングスキル

*関西学院大学において、AI活用人材育成プログラムを受講する際に、最初の履修を義務付けている科目です。

カリキュラム - 科目別到達目標

入門・基礎科目を受講すると達するレベル2は、AI機能/API[*1]やデータサイエンスなどの基本的な知識に加え、AIアプリ開発やデータ分析などの基本的な技術を有します。
実践科目を受講すると、レベル3に達し、上位者の指示を仰ぐことで、基本的な知識・技術をビジネス現場で活用することが可能となります。

AI活用人材育成プログラム：到達目標

AI活用人材のスキル		レベル定義		
		1（入門科目）	2（基礎科目）	3（実践科目）
		基礎知識を有する	基本的な知識・技術を有する 上位者の補佐ありで作業可能	実践的な知識・技術を有する 上位者の指示を仰ぎ作業可能
AIスキル	AI活用スキル	・AI活用入門	・アプリケーションデザイン入門	・Webアプリケーションプログラミング演習 ・機械学習プログラミング演習 ・UX/UIデザインプログラミング演習
ITスキル	プロジェクト マネジメントスキル	・AI活用入門	・アプリケーションデザイン入門 ・Webアプリケーションプログラミング演習	・Webアプリケーションプログラミング演習
	プログラミングスキル	・AI活用入門	・アプリケーションデザイン入門 ・データサイエンス入門 ・UX/UIデザインプログラミング演習	・Webアプリケーションプログラミング演習 ・機械学習プログラミング演習 ・UX/UIデザインプログラミング演習
データ サイエンス スキル	統計解析スキル	・AI活用入門	・データサイエンス入門	・機械学習プログラミング演習
ビジネス スキル	ビジネス基礎スキル （業務知識）	・AI活用入門	・データサイエンス入門	-

[*1]API（Application Programming Interface）は、「アプリケーションとプログラムをつなぐもの」であり、「プログラム(機能)を共有する仕組み」のことを指します。

本プログラムで身に付くスキル

AI活用人材に必要なのは、AIスキルだけではありません。本プログラムでは、4つの必須スキルが総合的に身につきます

01 AIスキル

AI活用スキル

AI・IT・データサイエンス・ビジネスに関する知識を持ち、かつ、
それらを組み合わせて実際の課題の解決に有効に反映する力

AIアプリ作成ワーク

02 ITスキル

プログラミングスキル

ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークに関する知識を保持し、かつ、
実際のシステム開発(プログラミング)に有効に反映する力

プロジェクトマネジメントスキル

IT関連のプロジェクトにおいて、
コスト、コミュニケーション、時間、人的資源等の要素を統合的に管理する力

プロジェクトを想定したワーク

03 データサイエンススキル

統計解析スキル(データ分析手法)

統計解析に用いられる多様な分析手法に関する知識を保持し、
かつ、データを意味ある形に加工し、適したツールを選出して統計解析を遂行できる力

統計解析スキル(数学・統計知識)

情報処理、統計学などの情報処理系の知識を保持し、活用できる力

プログラミングワーク

04 ビジネススキル

ビジネス基礎スキル(業務知識)

コミュニケーション力、論理的思考力、課題解決力といった、
業種や業界の垣根を越えて通用する、ポータビリティのある(≒持ち運び可能な)力

インダストリスキル(業界知識) *対象外

業界のバリューチェーン(原材料の調達から製品・サービスが顧客に届くまでの
一連の企業活動)を理解し、ビジネス課題の整理/解決に結びつける力

ビジネス課題を解決するAIソリューションを検討するワーク

*インダストリスキルは本教材では対象外としていますので、別途身につけていただく必要があります。

まずは、DXに必要な技術について広く周知を進めるなら、「AI活用入門」を受講することをお勧めします。

入門 コース

AI 活用入門

Before

DXプロジェクトにおいて、ITベンダーから来る提案や使う技術やツールが理解できず、評価が難しい

After

- DXにおけるAIとデータサイエンスの使い方を理解し、それを自社にどう活かすかを考えられるようになる
- 自社のDXプロジェクトにおいて、ITベンダーの提案を吟味し、評価できるようになる
- DXプロジェクトに業務担当として参加し、使用する技術やツールを理解し、それを基に社内ITチームやベンダーと議論を行えるようになる

本プログラム受講後の姿

DXをAIアプリを用いて実現する業務担当者の育成には、より高度な「AI活用アプリケーションデザイン入門」をお勧めします。

基礎 コース

AI 活用アプリケーションデザイン入門

Before

DXを進める中で、自社の課題をどのようなIT技術で解決できるかを検討するのが難しい

AIアプリの実装方法についてイメージできていない

After

- 自部門の課題について、講義で学んだAIアプリ（例:チャットボット）で解決可能ではないかと仮説を立てることができる
- AIアプリの機能や特性を理解し、ITベンダーに求めることを説明できるようになる
- ビジュアルプログラミング言語で、簡易的なチャットボット作成など、プロトタイプを作成できる

現在の企業では欠かせない存在となったデータの利活用については、「AI活用データサイエンス入門」をお勧めします。

基礎 コース

AI 活用データサイエンス入門

Before

DX推進の一貫で、社内でデータを保管しているが、活用できていない

DXを進めるにあたって、データ分析で自社が実現可能なこと、必要な準備がわからない

After

- 業務用システムから得られる分析結果や統計情報を理解・解釈し、業務に役立てることができる
- データ分析プロジェクトにおいて、IT部門やベンダーの説明を理解し、自社のメンバーに説明できるようになる
- ベンダーやIT部門にデータ分析を委託する際、必要なデータ加工を自ら実施することができる

高度なデータ分析や機械学習によりDXを実現する業務担当者の育成には「AI活用機械学習プログラミング演習」が最適です。

実践 コース

AI 活用機械学習プログラミング演習

Before

データ分析の解釈は理解できるが、自分で実装することはできない

DXを進める上で、機械学習を使って自社で何ができるのかがわからない

After

- 普段業務で用いているデータについて、Pythonを使った可視化ができる
- Pythonを用いて、簡易的な機械学習を実装でき、自らの業務に活かすことができる
- 機械学習が実現可能な条件、機械学習で実現可能なことを理解し、自社が実現したいことをITベンダーに説明できる

Webアプリケーションの開発によりDXを実現するには、「AI活用Webアプリケーションプログラミング演習」をお勧めします。

実践 コース

AI 活用Webアプリケーションプログラミング演習

Before

顧客の要望は理解できるが、システム設計や実装に落とし込む技術/スキルが足りない

自社のWebアプリの要件をベンダーに適切に伝える能力や、
Webアプリの仕組みについての理解が足りない

After

- 顧客の要望に基づいて簡単なシステムを設計・実装し、顧客に説明できるようになる
- Webアプリの仕組みを理解していて、ベンダーと会話する際には自社の要件を的確に伝えることができる
- JavaやHTML/CSS/JavaScriptを用いた、AIを活用した簡単なWebアプリを実装することができる

「ユーザー目線で製品・サービスを考えられる人材の育成には「AI活用UX/UIデザインプログラミング演習」をお勧めします。

実践 コース

AI 活用UX/UIデザインプログラミング演習

Before

HTML/CSSを用いてWebページを作成できるものの、動的で利用者に訴えかけるようなものは作れない

自社商品・サービスの価値を、自社視点を強調して販売している

After

- デザイン思考のメソッドを身に着けている
- ユーザー体験を起点としたUXと、それを直感的に伝えるUIデザインの手法を活用して、高度なWebアプリを実装できる
- ユーザーのニーズや意見を持つ営業部門と、性能・品質にこだわる製造部門と協力して、新しい商品価値を捉えなおすことができる

修了証・オープンバッジについて

修了証の設定

プログラム修了後には、“AI活用人材”であると証明する”修了証”と”オープンバッジ”を発行します。（設定Aのみ）

受講科目を選択後、設定を選択いただけます。設定は、目的や受講者のニーズ、提供方法に合わせて、
設定A（修了証発行版）と設定B（修了証なし版）の2パターンからお選びいただけます。

STEP1
科目を選択

- AI活用入門
- AI活用アプリケーションデザイン入門
- AI活用データサイエンス入門

STEP2
設定を選択

- 設定A:修了証発行版
- 設定B:修了証なし版

設定	設定A:修了証発行版	設定B:修了証なし版
こんな場合にオススメ	• 社内の必須研修で使用する • 大学の単位科目として導入する • スキル証明にしたい	• 必要な時に必要な箇所のみ学びたい • 既にAIについてある程度知識がある • 社内で希望者のみに提供する
修了証	発行あり （修了証の発行は条件あり*1） 社内研修の証明書としてもご利用いただけます。 	発行なし
オープンバッジ	発行あり	発行なし
テスト	合格点あり （8割以上で合格）	合格点なし
飛ばし見*2	1度目の視聴は不可 （2度目の視聴から可能）	可能
再生速度*3	変更可能	変更可能

*1全ての講義動画を視聴・テストに合格（合格するまで受験可能）し、100%修了することが条件となります。
*2飛ばし見とは、動画のシークバーを動かして動画を進めることができる機能です。
*3受講者が再生速度を0.5倍~2.0倍に変更することができます。

オープンバッジとは – 概要

オープンバッジは、資格・スキル・能力を示すデジタル証明です。

資格・スキル・能力を示すデジタル証明=オープンバッジ

能力

資格

スキル

デジタル証明

オープンバッジ

特徴

01 国際標準規格

世界的な技術標準規格
「IMS Global Learning Consortium」
に準拠し発行

02 改ざん防止

ブロックチェーン技術を取り入れ、
偽造・改ざんが困難で、
信頼のおける新たな学習・資格証明書

03 海外での普及

多数の海外大学やグローバル企業などで、
利用が進んでいる
年間2400万個が世界中の企業・公的機関、
資格試験団体、研修機関、大学・学校等から発行

オープンバッジとは – 本プログラムで発行するオープンバッジ

本プログラムを修了するとオープンバッジで、AI活用人材であることをデジタルに証明します。

AI活用入門

AI活用
アプリケーションデザイン入門

AI活用
データサイエンス入門

AI活用
機械学習
プログラミング演習

AI活用
Webアプリケーション
プログラミング演習

AI活用
UX/UIデザイン
プログラミング演習

オープンバッジとは – オープンバッジの仕組み

オープンバッジで、いつでも、誰にでも、簡単に“AI活用人材”であることを証明できます。

教材提供者/
オープンバッジ発行者*1

関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

教材提供

受講修了

オープンバッジ発行*2

受講者

オープンバッジは様々なシーンに活用できます。

01

保管

オープンバッジは、自分専用の
ウォレットへ貯め、保管できます。*3

02

表示

オープンバッジの証明内容は
簡単にいつでも確認・検証できます。

03

共有

オープンバッジは、メールやSNS等で
共有することができます。

オープンバッジとは - AI活用人材育成プログラム オープンバッジ取得のメリット

メリットがあるのは、受講者だけではありません。企業・法人・自治体、学校法人の管理者にもメリットがあります。

AI活用人材育成プログラムオープンバッジ取得のメリット

受講者側	AI活用人材であることを簡単に示せる、スキル証明として活用できます
管理者側	**共通** 先進的な技術、システムであるオープンバッジを利用することで、内外に対してイメージアップが図れます 人事制度などの既存の仕組みに対する利用の新たな動機付けとなります
	企業・自治体など デジタル証明によって、社内研修の価値を高めることができます （社内研修として本プログラムを導入する場合） AI活用人材のスキル証明として、昇進、社内異動、年次評価などに使用することができます
	学校法人 オープンバッジの取得を単位付与条件にすることができます （単位付与科目として本プログラムを導入する場合） 学生がAI活用人材であることが証明でき、企業への推薦時などに利用できます

システム・サポート紹介

受講者が学びやすいラーニングシステムを採用
システム導入不要で、管理者も使いやすいシステムです

70万ユーザーの運用実績を誇るプロシーズ社が提供するラーニングシステム上で教材を提供

70万ユーザーの
運用実績

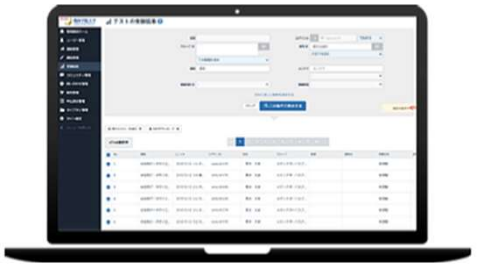
システム導入は不要、ウェブ上での受講が可能

ウェブ上で受講が可能なため、
システム導入が不要

ユーザー同士がコミュニケーションを取れるため、ソーシャルラーニングが可能

ユーザー同士が
コミュニケーション可能

管理者は受講者の進捗管理・成績管理が可能



受講者のログイン回数や
講座の進捗状況を確認可能

テスト結果の閲覧や
テスト結果の分析が可能

本プログラムの教材は、プロシーズ社のラーニングシステム上で提供するため、学びやすく、システム導入も不要です。
また、ユーザー同士の交流の場や、受講者の進捗管理・成績管理機能を管理者が利用できることも特徴です。

代表管理者ありの場合

バーチャルラーニングシステムは、2,400社以上の導入実績がある
プロシーズ社のeラーニングシステム”LearningWare”を使用しております

受講者の学びやすさはもちろん、管理者向けの機能が充実しています。

機能カテゴリ	機能	概要	受講者向け	管理者向け
ユーザー管理	ユーザー情報の閲覧/変更	自分の所属するグループのユーザー情報のみを閲覧・変更することができます。		○
	グループ管理	自分の所属するグループのユーザーをさらにグループ分けし、グループごとに管理者を設定することができます。		○
連絡管理	お知らせ/アンケート	自分の所属するグループの受講者に対して、お知らせを送信することができます。受講者からの返信を確認し、その返信にコメントを書き込むこともできます。閲覧状況(既読・未読)・返信状況(返信・未返信)の確認可能です。		○
	メール	自分の所属するグループのユーザーにメールを送信することができます。ユーザ別送信・一括送信を選択可能です。		○
	アナウンス	自分の所属するグループのユーザー個別にアナウンスをすることが可能です。		○
結果管理	講座進捗	自分の所属するグループの講座進捗状況を受講者別に管理。進捗状況に応じたフォローができます。		○
	テスト	自分の所属するグループの受講者が受験したテスト結果を管理。テストの受験結果に応じたフォローができます。		○
	講座アンケート	自分の所属するグループの事前/事後アンケートの回答内容・回答状況(回答・未回答)・集計結果の確認も可能です。アンケート回答状況に応じたフォローができます。		○
	各種ログ	自分の所属するグループの受講者のユーザー情報・成績等の各種ログをCSVファイル形式で出力することができます。		○
コミュニティ管理	トークボード	自分の所属するグループにトークボード(掲示板)を設置することで、グループ内の受講者が情報を公開・共有することができます。画像のアップロード可能です。	○	○

利用者を支えるTAチャットボット

- AIによるTA*1チャットボットが受講者の疑問を解消、また、運用側の負担も軽減し、関わる人の継続利用を支えます。

TAチャットボット

IBM専門家と関西学院大学担当教員で開発した
学習済みのTAチャットボットが利用者を支えます。

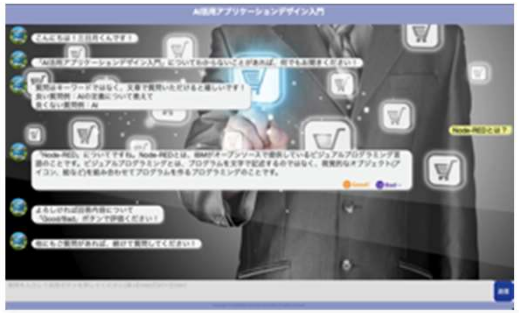
- ✓ 科目毎専用のチャットボット
- ✓ 学習データは1万件以上想定

受講者

Q 気軽な問い合わせ

A 学習内容に応じた回答

チャットボット画面



即応性：いつでも質問
気軽さ：手軽に質問
専門性：均質な回答

*1Teaching Assistantの略。大学教授の補佐を行い、教授が担当する講義の受講生対応も行う。

利用者を支えるお問い合わせ窓口

TAチャットボットでは答えられない/答えられなかった質問に対応するため、お問い合わせ窓口も準備されています。
有識者が回答するため、個別のトラブル対応やチャットボットが学習していない質問にも回答ができ、受講者の疑問を解消します。

お問い合わせ窓口

TAチャットボットが答えられなかった質問は、
有識者が回答いたします。

- ✓ 個別のトラブルの対応
- ✓ チャットボットが学習していない質問への回答
- ✓ システム不備の対応

受講者

Q

問い合わせ

A

有識者による回答

お問い合わせ画面

私が答えられない時は
有識者に聞いてくださいね！

つきまる

動作・推奨環境

i-Learning

各講義を受講する上で、必要な環境は下記の通りです。

インターネット環境

- 動画再生や視聴には大量のデータ通信を行うため、**Wi-Fi環境でのご利用を推奨**します。
- なお、発生したデータ通信費用について弊学は一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。

デバイス

- 動作環境は、
  Windows11
  Mac OS Big Sur 11以降のOSとなります。[*1]
- ワーク実施時に、データやツールをダンロードするため、メモリ容量およびストレージ容量(ハードディスク，SSDの容量)に余裕があると良いでしょう。
- PCでの受講を推奨します。PC以外では、正しく動作しない場合があります。

ブラウザ

- **下記ブラウザの最新版**が推奨ブラウザとなります。[*1]

  【Windows11の場合】
  - Microsoft Edge 最新版
  - Google Chrome　最新版

  【Mac OS Big Sur 11以降の場合】
  - Safari　最新版

[*1]動作・推奨環境は変更となる可能性がありますので、下記から最新情報を適宜ご確認ください。
ラーニングシステム: https://kwanseigakuin-ai.learning-ware.jp/login/operating-environment
IBM Cloud: https://cloud.ibm.com/docs/overview?topic=overview-prereqs-platform&locale=ja

オンラインプログラミング環境

AI活用機械学習プログラミング演習、AI活用Webアプリケーションプログラミング演習ではオンラインプログラミング環境を提供しており、プログラミングを簡単にご体験いただけます。

オンラインプログラミング環境には、下記制約があります。ご了承の上お申し込みください。

オンラインプログラミング環境画面イメージ

【制約】

- オンラインプログラミング環境は、同時アクセス数に上限があり、アクセスが集中するとコードを実行できないことがあります
  ※アクセス上限数は受講者数等の状況に応じて変更することがあります
- 負荷の高いコード（過度に行数の長いものやループなど）を実行すると、アクセス数に満たない場合も実行できないことがあります

セキュリティ要件 – 認証方式

バーチャルラーニングシステムには、ログインID・パスワードでログインすることができます。
SSO認証や生体認証でのログインはできませんので、ご了承ください。

◆ ID・パスワード認証 → ログイン可能

◆ 生体認証（顔認証）
◆ SSO認証 → ログイン不可

*各社環境は、物理レイヤー（VM,DB）ではなく、論理レベルで分離しております。各お客様専用サイトはご用意しておりません。

バーチャルラーニングシステムを運営するプロシーズ社のセキュリティ関連情報は、下記の通りです。

- SSL/TLS

TLS1.2(鍵長256bit, SHA-384, AES256) サーバー証明書には2048bitの公開鍵を使用。

- データセンター

IDCFクラウドの西日本リージョン(北九州データセンター)。
ティア3相当
データセンター側に入退室管理はされておりますか、プロシーズ社員かデータセンターへの入退室することはなし。
IDCFクラウドにおけるセキュリティ管理についてはISO/IEC 270 17 ホワイトペーパーに記載。
https://www.idcf.jp/cloud/pdf/iso27017 security WP.pdf
https://www.idcf.jp/cloud/pdf/IDCFCloud security WP.pdf
ハイオメトリックセンサー/セキュリティポータル・カメラ監視・常駐の警備員
https://www.idcf.jp/datacenter/facility/
対面での入退室許可・登録のある者だけが入室できる。顔写真付きの身分証明の提示。火災予兆検知システム・ガス消火システム

- プライバシーポリシー

https://www.idcf.jp/jp/privacy.html?cl=rd 0315

- データセンターの災害対策

IDCFクラウドを使用しており、継続できる構成と考えている。
https://www.idcf.jp/cloud/security/approach.html
※UPS(無停電電源装置) やGTG(自家発電設備)を冗長構成で設置
※西日本リージョンを使用しているが、東日本リージョンに移動も可能。複数系統の受電体制、非常用発電機、バッテリーを備えた無停電電源装置(UPS)
https://www.idcf.jp/datacenter/housing.html

- ファイアウォール

外部ネットワークと内部ネットワークの境界にファイアウォールを設置。IPアドレス、ポート番号は必要最小限の通信に制限。ファイアウォールはログ自体を残していない。(IDCFの仕様なため)

- HDD・リソース

リソース(ファイルアップロード領域)の増加はIDCFクラウドのオブジェクトストレージを利用しているため拡張作業自体が不要。

- DB・パスワード暗号化

データベースについては、パスワードのみハッシュ化。パスワードはbcryptアルゴリズムでハッシュ化。

- 脆弱性診断

年に4回の第三者機関による脆弱性診断を行っている。診断結果を精査し、修正している。修正対応するかは項目によるが、基本的には高・中レベルの脆弱性には対応している。
脆弱性診断の中でOWASP TOP10に対応した、ペネトレーションも実施している。

- ウィルス対策

Webサーバーにインストールされたアンチウイルスソフトウェアか、ファイルかサーバーに 配置されたタイミングでスキャンをしている。
ESET File Security(https://eset-info.canon-its.jp/business/file security/) 定義ファイルは定期的に自動更新されている。

- システムの変更検知

システムの更新は、バージョン管理システム上での他者による承認プロセスがある。
また、本番のファイル更新は構成ツールによる更新なので、意図しないシステム変更が極力起こらない対応をしている。

- サーバーへの接続

本番更新作業は、ネットから隔離された専用端末からサーバーへ接続し、2人体制にて実施。専用端末からサーバーへのアクセス権は承認を得たもののみ可能。

- WAF/IDS/IPS

WAF と IPS/IDS が防御可能なクラウド型の製品を導入している。

- 関連認証

プロシースはISMS/情報セキュリティマネジメントシステム認証を取得している。

料金プラン

料金プラン

i-Learning

●入門/基礎

・AI活用入門
・AI活用アプリケーションデザイン入門
・AI活用データサイエンス入門

1講座1名あたり
¥22,000(税込)

●演習

・AI活用機械学習プログラミング演習
・AI活用Webアプリケーションプログラミング演習
・AI活用UX/UIデザインプログラミング演習

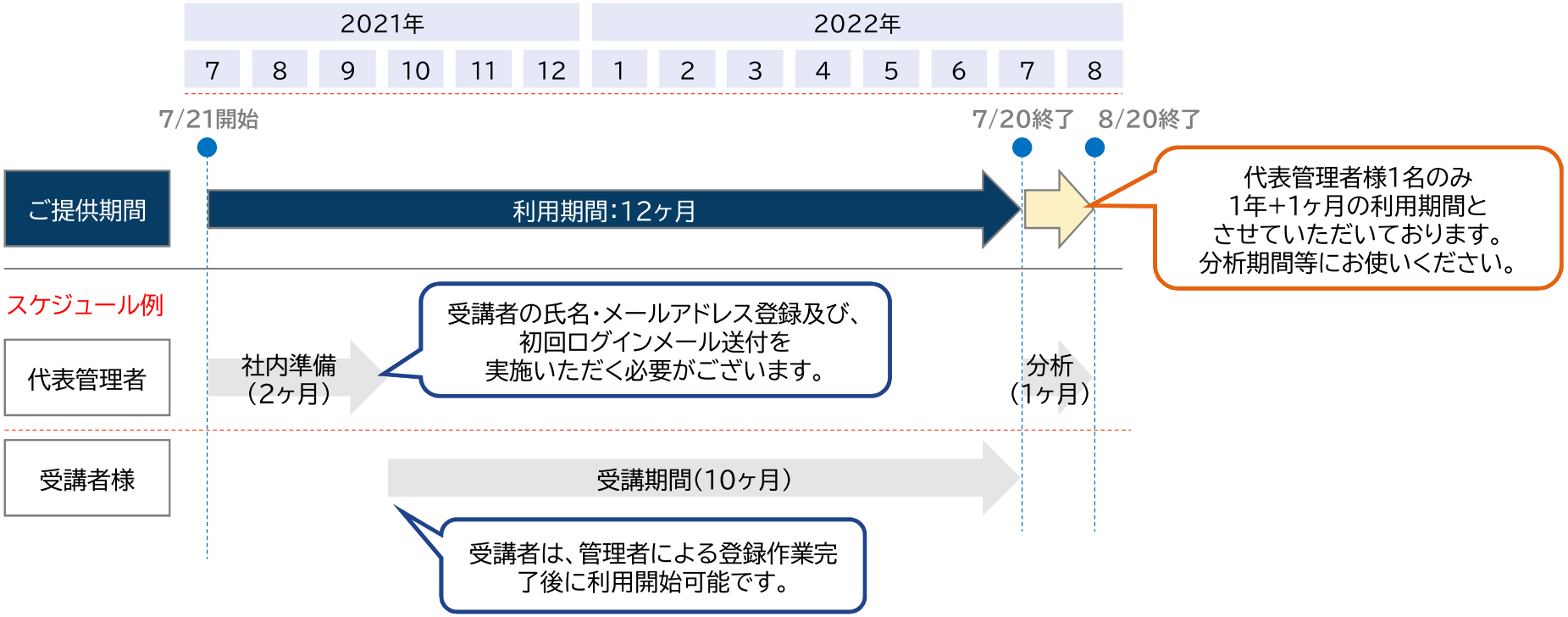
1講座1名あたり
¥25,300(税込)

利用期間の考え方

代表管理者ありの場合

■ **利用期間の考え方**

ログイン開始可能となる利用開始月21日から1年間が利用期間となります。*1
1年間の使い方は様々です。準備期間や受講期間をデザインして、ご利用いただけます。
管理者が受講者のユーザー情報登録・初回ログインメール送付を行うことで、受講者は受講を開始することができます。



*1:利用開始の条件として、ご希望の利用開始月の10日までに弊社に申込書をご提出いただく必要がございます。
(例)7/21がご利用開始日の場合、7月10日までに申込書をご提出ください。

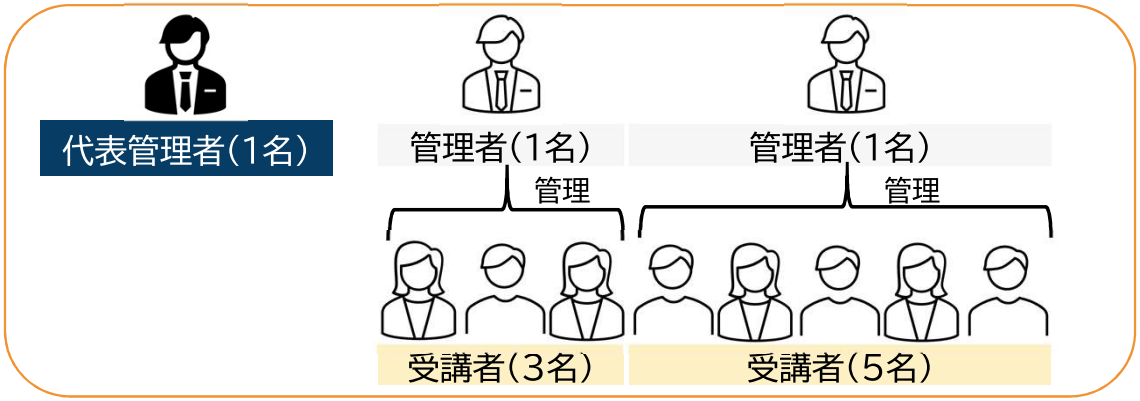
ID(アカウント)の考え方

代表管理者ありの場合

代表管理者1名分のID(アカウント)は無料で発行いたします。
代表管理者以外にも、管理者権限が必要な場合は、管理者人数分も含めてIDをご購入ください。

1社/1団体あたり、代表管理者権限1名分を、無料で提供しております。
代表管理者様は、利用開始後に、受講者情報の登録作業を実施していただく必要がございます。
※代表管理者アカウントは無料です。管理者アカウントは、代表管理者が必要に応じて作成いただく管理者アカウントです。アカウント作成者の違いのみで、権限内容に差異はありません。

(例)お客様が実現したい構造:受講者8名を、管理者2名で分担し、管理したい場合



ご購入いただくID数

10 ID

(管理者+受講者*1)

必要な管理者と受講者の
合計数をご購入ください。
ご購入いただいたIDは、
全て受講者として提供されます。*2

*1 代表管理者は無料で提供いたします。購入いただくID数には含めないでください。
*2 管理者を設定する場合、代表管理者が受講者を管理者に権限変更する必要がございます。
注意点:1社あたりの最低購入金額は税込110,000円(5アカウント分)となります。

利用開始時/運用時の管理者タスク

代表管理者ありの場合

代表管理者の必須業務は、利用開始時に必要な受講者の氏名・メールアドレス登録のみです。
その他記載の業務は、必要に応じて、代表管理者もしくは管理者でご対応ください。

赤字：必須

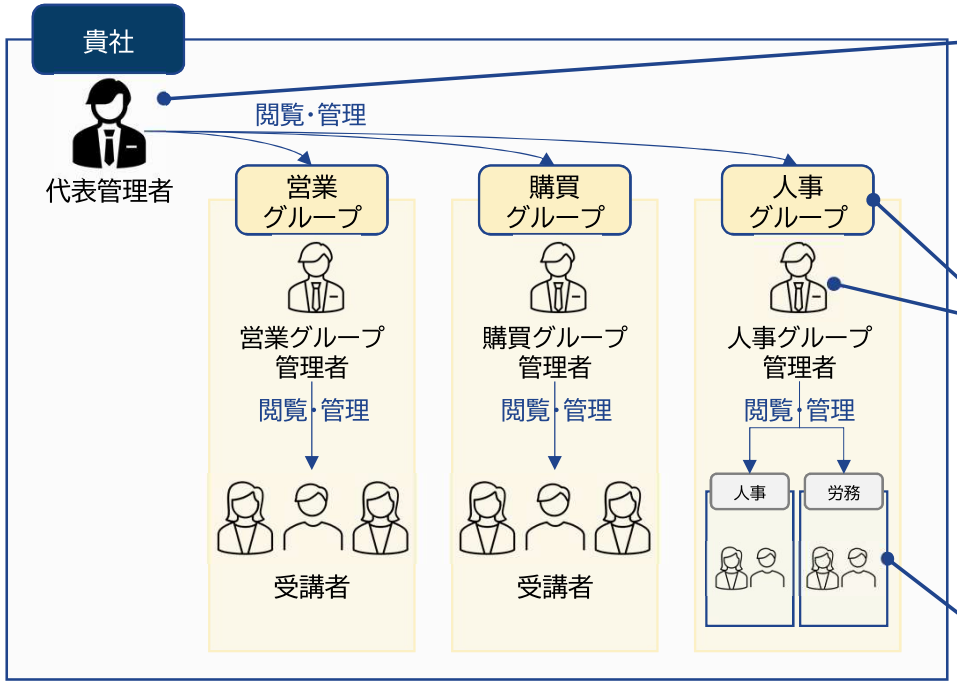
ユーザー登録 環境整備	• ユーザー氏名/メールアドレス登録 • 特定の受講者を管理者権限に変更する • グループの新規作成、作成したグループへの管理者・受講者の配置（次頁参照）
システム管理	• ホワイトリスト登録（お客様のシステムでご対応ください） ※各企業・団体で作成されている、使用してよいと判断した安全なアプリケーションやプログラムを定義したリストです。 • 本学より通知される障害・メンテンナンス情報を受講者に通知 （年2～3回程度/受講者への通知要否のご判断はお任せします）
受講状況の 確認・活性化	• 受講状況・テスト結果の確認 • csvファイル形式での受講データの出力 • トークボード（受講者コミュニティ）の作成・運用
継続利用申請	• 継続利用要否を判断し、本学に継続申請 • 継続利用をご希望の場合、継続利用書類の記入 ※継続案内メールは、利用終了の約半年前、約2ヶ月前に代表管理者様のみに送付いたしますので、お見逃しのないようご注意ください。

利用開始時/運用時の管理者タスク - 環境整備

代表管理者ありの場合

代表管理者はグループを作成し、各グループに管理者・受講者を配置することができます。

社内の組織を反映して階層を作成いただくことも可能ですが、運用負荷の観点から1階層までとすることを推奨します



代表管理者・管理者権限について
代表管理者は、ご購入時に無料で1アカウント提供しております。
管理者が複数必要な場合は、受講者としてご購入いただき、
利用開始後にお客様にて管理者権限へと変更してください。

例:受講者100名・管理者5名が必要な場合(代表管理者除く)
→105名分の受講者アカウントをご購入ください

グループの作成、管理者・受講者の配置について
第一階層のグループの作成及び、管理者・受講者の配置は、
代表管理者に実施いただく必要がございます。
第二階層以下については、各グループ管理者にて作業が可能です。

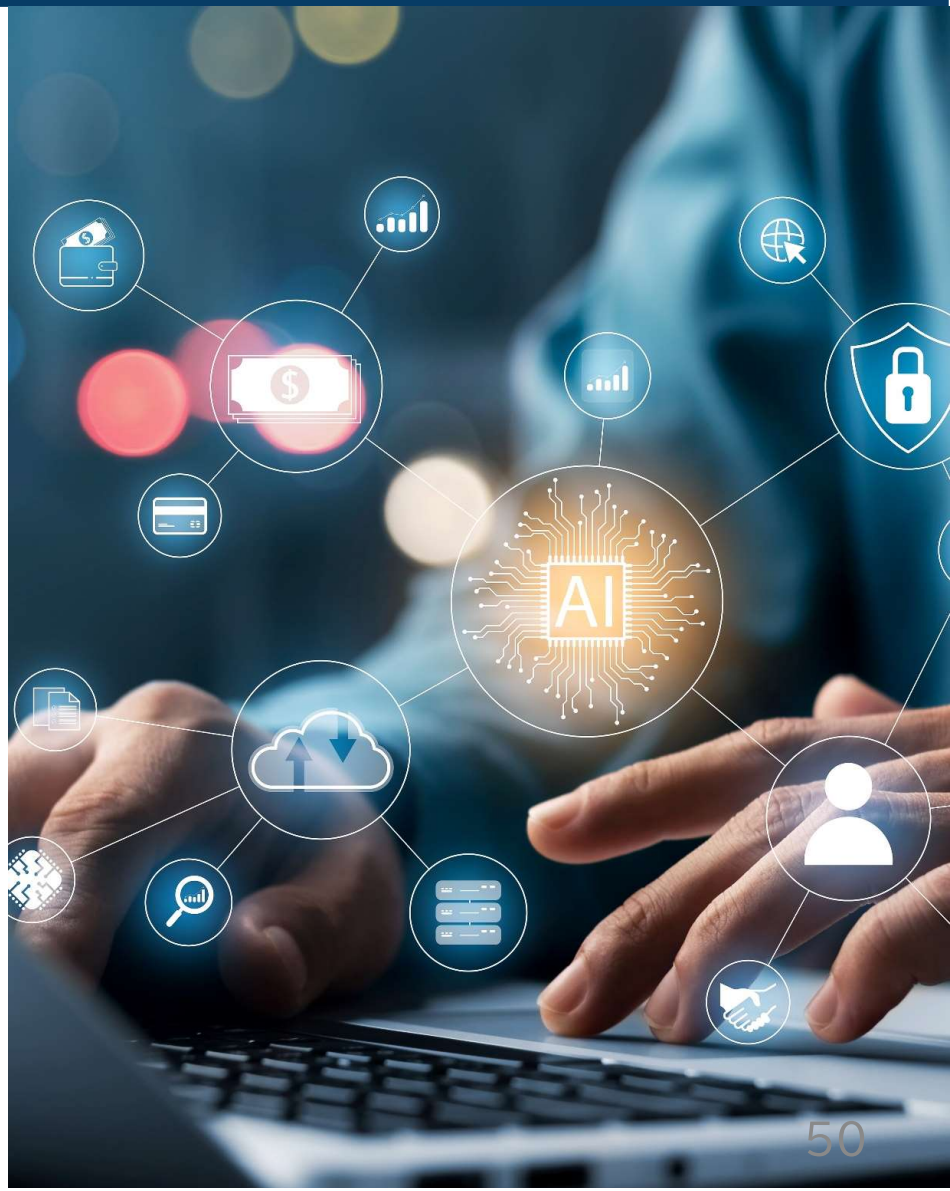
グループ・階層について
グループ管理者は、自身のグループに所属する受講者の情報を
閲覧することができますが、他グループの情報は閲覧できません。
また、2階層以上のグループの作成はメンテナンス等の運用不可が
高くなることが考えられるため、推奨いたしません。

例:
- 代表管理者は、全管理者・受講者の情報を閲覧可能
- 営業グループ管理者は、購買グループの情報を閲覧不可
- 人事グループ管理者は、配下の人事/労務グループの情報を閲覧可能

お問い合わせ方法

弊社HPのコース詳細のお問い合わせフォームでの
ご連絡をお待ちしております。

AI活用入門
AI活用アプリケーションデザイン入門
AI活用データサイエンス入門
AI活用機械学習プログラミング演習
AI活用Webアプリケーションプログラミング演習
AI活用UX/UIデザインプログラミング演習



i-Learning

お問合せ：
contact@i-learning.jp
0120-623-629

株式会社アイ・ラーニング